

SSS（シンガポール・スプリングセミナー）オンラインから未来に羽ばたく

・プログラム参加の理由・目的

私は1年次に、第13回シンガポール・スプリングセミナーに参加予定でしたが、新型コロナウイルスが流行し始めた時期と重なり中止になってしまいました。本プログラムは、昨年度に引き続きオンライン形式での実施ということもあり、実地での体験の代わりになり得るのか不安に感じていました。しかし、説明会で昨年参加した学生の体験談を聞き、実地と同じではないかもしれないけれど、異なる学びを多く得ることができると感じ、参加を決意しました。

・プログラム概要/プログラムの学習・活動から学んだこと

第15回SSSオンラインは全てZoomを利用したプログラムであり、午前は英語研修機関による英語の講義、午後はシンガポールの日系企業の方々とのセッション、という構成でした。

英語の講義は、ビジネスシーンとプレゼンテーション時において必要な英語表現や効果的な論理構成を中心に学びました。最終日のチームプレゼンテーションに向けてグループワークが多く用意されており、学部学年を超えた参加学生が交流し合いながら協働して活動しました。2週間という短い間でしたが、同志ができたように感じました。

企業セッションでは、企業の方々が生徒とのディスカッションを重視してくださっており、私たちの質問や意見に対して丁寧に答えてくださりました。中でも、オムロン・マネジメントセンター・オブ・アジアパシフィックのヴィレンドラ社長が最後におっしゃった「I am responsible for my career. I must develop myself.」というメッセージが印象に残っています。この言葉から、世の中のために自分が貢献し得る強みは何かを自覚すること、それをどう発揮するかを自分の意思で、責任で決断していく姿勢をいつでも貫きたいと感じました。

シンガポール国立大学の生徒との交流会は、言語学習への良い刺激になりました。彼らは日本語を学習しており、英語はもちろん日本語も流暢でした。日本のアニメや漫画などにも興味津々で、英語と日本語を混じえながら話が盛り上がりました。

・語学がどれくらい向上したか

短期間のプログラムであるため英語がぐんと上達したというわけではありませんが、英語学習に対するモチベーションは間違いなく向上しました。2週間、常に英語に触れる・話す環境に身を置く中、英語で言いたいことを上手く伝えられないもどかしさを嫌でも感じました。しかし、その悔しさが自身の英語の文法や表現を見直すきっかけになり、「次はこの言い方を試してみよう。」という意識につながりました。また、参加生徒も英語で

発言することに積極的であり、その姿にも刺激を受け、自分ももっと頑張りたいと意欲が湧きました。

・プログラム参加を検討している方へ

このプログラムは、英語研修や企業セッション、交流会を通して、シンガポールで働く・学ぶ人々を知る機会にもなります。普段は出会えないであろう彼らと話すことで、自分の中には無かったものの見方や発見が多くありました。日本に居ながらもこのような体験ができたのは、オンラインならではの強みであるかと思えます。Zoom使用中は、何度か電波が悪く接続が切れてしまったことがあるのですが、先生方を初め参加学生のみんなもサポートしてくれましたし、多少何かあっても大丈夫だと冷静に対応できる心構えができました。オンライン形式のプログラムやイベントは、今後、より普及していくと思います。海外にいる方々と繋がる体験をする良い機会になるでしょう。また、質問や意見などを発信できる機会が多くあります。最初は躊躇うかもしれませんが、思い切って発言してみると、そこから議論が深まったり、良いアイデアが生まれたりするきっかけになることがありますし、それが自信にもつながります。

このように、多くの学びと成長を得られるプログラムになっています。今迷っている人は、思い切って挑戦してみてはいかがでしょうか。